

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	歴史的建造物のオーセンティシティと耐震性確保のための保存再生技術の開発
研究代表者	青木 孝義 (名古屋市立大学・大学院芸術工学研究科・教授) ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>本研究は、日本におけるRC造と組石造による文化財・近代化遺産構造物のオーセンティシティを保ったまま、耐震性・耐久性を確保するための保存再生技術の開発と、保全のために資する資料とガイドラインの作成を目的とした研究である。建築歴史、構造学、材料学、耐震工学、環境工学など、多くの専門分野の研究者が結集し、国内外の文化財・近代遺産構造物の調査や実験・測定を基にした様々な技術開発を行うものであり、極めて社会的意義が高い。また、歴史的建造物の保存再生という制約の厳しい条件を前提とした技術の開発は、相対的には条件の緩やかな一般建造物の保存再生に発展する可能性も期待されるところである。研究計画も具体的で各分担者の役割も明確であることから、むしろ多方面の専門家が集結することによってはじめて達成できる研究課題であると考えられる。</p> <p>よって、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>